

平成 28 年 8 月 1 日

各 位

会 社 名 東邦ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 濱田 矩男
 (コード番号 8129 東証第一部)
 問合せ先 執行役員 経営企画本部 副本部長
 兼 広報・IR 室長 河村 真
 (電 話 03-6838-2803)

平成 29 年 3 月期 第 1 四半期の連結業績について

東邦ホールディングス株式会社は、本日、平成29年3月期 第1四半期決算を発表しましたのでお知らせします。

当社は、当第 1 四半期において、本年 4 月の市場拡大再算定の特例を含む 7.8%の薬価基準引き下げやジェネリック医薬品のさらなる使用を促進する診療報酬の改定などの医療費抑制策が推進される中、医療、健康、介護分野に携わる流通企業集団として、今後の急速な環境変化に迅速に対応するため、引き続き、患者さまや医療機関さまが抱える問題を解決する様々な顧客支援システム・サービスの開発・提案に取り組み、地域包括ケアシステムの構築に貢献することで、幅広い分野で存在価値を発揮する付加価値サービス型ビジネスモデルへの変革を推進しました。また、個々の製品価値に応じた価格での単品単価の価格交渉により適正利益の確保を図るとともに、物流センターとコールセンターの機能を強化し、受注から配送にわたる全てのオペレーションコストの低減と「営業と物流の一体改革」を一層推進することにより業務の効率化を図り、間接部門を含めた人員の適正化に努めることで、経費の削減を図りました。

当第 1 四半期の医薬品卸売事業の売上高は、薬価改定の影響があったものの、昨年度第 2 四半期以降に急成長しました C 型肝炎治療薬の前年同期比較での拡大や抗がん剤等の新薬の伸長により、前年同期比 7.1%増、営業利益は当社独自の顧客支援システム、特に自動音声認識薬歴作成支援システム

「ENIFvoice SP」、初診受付サービス、かかりつけ薬剤師対応を支援する「薬剤師 WEB ラーニング」の契約件数の拡大に加え販売管理費の抑制効果もあり、前年同期比 79.8%増となりました。

調剤薬局事業については、本年 4 月の薬価改定及び調剤報酬改定による影響があり、売上高は前年同期比 0.7%減、営業損失は 1 億 18 百万円（前年同期は 4 億 46 百万円の営業利益）となりました。今後も引き続き、各店舗において調剤報酬改定に対応した機能強化を図り、地域医療に密着した「健康サポート薬局」を目指した店舗運営に取り組むことと、店舗業務の標準化や本部への業務集約等による経費削減策を推進することで収益性の改善に努めます。

以上の結果、当第 1 四半期の連結業績は、下表の通りとなりました。なお、平成 28 年 5 月 11 日に発表しました平成 29 年 3 月期 第 2 四半期累計期間および通期の業績予想に変更はありません。

単位：百万円（百万円未満切捨て）

連結	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
当第 1 四半期	314,333	3,753	5,293	3,503
前第 1 四半期	295,159	2,687	4,309	1,358
増減額	19,174	1,065	983	2,144
前年同期比	106.5%	139.6%	122.8%	257.8%
第 2 四半期累計業績予想	641,000	9,500	12,200	7,700
進捗率	49.0%	39.5%	43.4%	45.5%

以上